

令和 6 年度 学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和 7 年 1 月 3 1 日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 (★学校関係者評価を受けて)
基礎・基本の定着とかかわり合う力の育成	基礎・基本の定着	・「読む・書く・話す・計算する」の確実な定着を図る。 ・わかった、できたという喜びのある授業を実践する。	A	A	<p>少人数指導、支援員補助、漢字・計算チャレンジテスト等が、基礎学力の定着につながった。</p> <p>話し合いを中心とした授業づくりを目ざし、「大村っ子たいむ」を充実させた。子どもだけでなく職員も、話し合いの基礎・基本を身につけ、少しずつ授業改善が進んでいる。</p>	A	<p>学習意欲を喚起する工夫と丁寧な指導が功を奏している。今後も、目標未達の子どもたちも含めて、達成感を味わえる指導をしてほしい。</p>	<p>よい評価をいただいた取り組みはそのままに、基礎基本のさらなる定着を目ざして朝学習の時間を活用していく。また、話し合う力を育むために、現研を通して全職員で研修を深め、授業改善につなげていく。</p>
	「聴く、考える、話す」力の育成	・相手に正しく伝える表現力を育む。 ・仲間と学び合い、考えを深め合う力を育む実践に取り組む。	A					
互いに思いやり、認め合い、励まし合える集団作り	温かな学級集団づくり	・一人一人の児童の多様性に対応し、個を育て温かな集団をつくる実践に取り組む。 ・さわやかなあいさつの定着を図る。 ・行事に向けての取り組みで学級をつくる。	B	A	<p>昨年度から力を入れているあいさつ指導は、今年度もB評価ではあったが、内訳は向上している。今後も粘り強く取り組みたい。</p> <p>授業や行事等で児童主体の企画・運営を心がけ、一定の成果を得たが、児童自身が実感できてない面もある。成長を認め、自信や達成感を味わわせることにも注力したい。</p>	A	<p>子どもたちの学習の様子から、大きな成長を感じる。教師の温かな支援の賜物であろう。今後も、子ども主体の活動を粘り強く継続してほしい。</p>	<p>集団としての成長を目ざして、子ども主体の活動となるように、学級経営や行事運営を見直していく。あわせて、教師による見取りや外部からの評価も子どもたちに積極的に伝え、達成感を味わわせるとともに次の活動意欲を高める。</p>
	子ども主体の活動の推進	・子どもが考えて動く場面を授業や特別活動等で意図的に設定する。 ・目標の振り返りを行い、仲間とともに問題解決できるようにする。	A					
健康・安全への意識向上	体力づくり運動の推進	・外遊びや体力づくり運動を継続し、運動を楽しむことが好きな子どもを育てる。	A	A	<p>外遊びの時間の確保、体力づくりのための強調週間、振り返りのカードの活用等により、親子で体力向上を実感できたと感じる。</p> <p>依然メディアとのかかわり方に課題が残るが、全市で取り組みが始まったメディアコントロールチャレンジの活用、養護教諭による保健授業、保護者への協力依頼等を通して、日頃から健康への意識を高めていきたい。</p>	A	<p>体力向上に対する取り組みを評価する。一方で、メディアとの付き合い方に課題は残るが、市の取り組みとタイアップして、引き続き子どもたちの健康推進に取り組んでほしい。</p>	<p>安全に対する意識を高めるために、下校指導にいっそう注力していく。また、メディアとのかかわり方も、市の取り組みと足並みをそろえて粘り強く指導していくとともに、保護者の理解と協力を得られるように、学校から積極的に情報発信や啓発活動を行っていく。</p>
	健康づくりの推進	・メディアとのかかわり方を考え、生活リズムを整え、安定した生活ができる実践力を高める。 ・健康によい食事のとり方や歯磨きの仕方などを理解し、自ら管理していく能力を身につける。	B					
	安全な生活に対する意識の向上	・「自分の命は自分で守る」（災害・交通事故等）意識と実践力を高める。	A					
信頼される教師集団の育成	子どもと接する時間を生み出す改善	・「大村」の地域素材を取り入れた授業を 1 単元実践する。 ・現職研修テーマに基づき、授業力向上を目指した校内研修を推進する。 ・多忙化解消の取り組みを積極的にすすめ、教職員の負担を軽減することで心と体の健康を保つ。	A	A	<p>授業だけでなく現職研修にも外部講師を積極的に招き、地域素材を生かした単元づくりに取り組み、授業力向上に寄与した。</p> <p>昨年度の評価を踏まえ、学級通信や学校IPを充実させ、タイムリーな情報提供や発信に努めたことで、保護者・児童の評価が大きく向上した。ただ、これが職員の負担増となっていることは否めず、改善方法を検討したい。</p>	A	<p>学習面だけでなく、下校時の安全指導等、多くの場面で子どもたちへの細やかな指導と支援が見られる。負担が増えすぎないよう、業務の効率化について検討を続けていけるとよい。</p>	<p>今後も地域素材を生かした単元づくりを継続し、実践を財産として蓄積する。これにより、過度な負担なく教師の力量向上を図り、あわせて地域とともに歩む学校づくりを推進していく。また、学校からの情報発信は、内容を工夫することなるべく頻度を落とさずにいく。</p>
	地域や家庭との連携強化	・児童の生活面学習面や家庭の様子について、情報の提供や収集、タイムリーな対応を組織で図る。 ・児童、保護者、地域のかた等に敬意をもって接する。	A					

【自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価】

【関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】